

親子で巡る国会議事堂見学

日本麻酔科医会連合主催で国会議事堂見学を7月23日（日）に行いました。当日は33°Cを上回る大変暑い中、成人20名、学生23名の計43名に参加いただきました。事務局から3名が加わり、自民党議員連盟「日本の安全な麻酔・周術期医療を考える会」事務局の今枝宗一郎衆議院議員の支援を頂き開催することが出来ました。

国会議事堂前に集合して、14時から見学を始めました。国会議事堂は、1920年大正9年から17年かけて大理石、花崗岩をふんだんに使って1936年に昭和11年に完成しています。中央棟を中心に左側が衆議院、右側が参議院で、地下1階、地上3階建ての左右同じ作りとなっております。会議場内には、議長席、大臣席、演壇、議員席の他、天皇・皇后両陛下が膨張される御座所、左右の貴賓席（左：皇族、右：国が招いた外人）の傍聴席、111の記者席が設けられています。

議事堂のほとんどに国産品が使われていますが、ステンドグラスがイギリス製、各部屋の鍵と廊下のポストがアメリカ製となっております。議事堂内の廊下は天井が高く、赤じゅうたんが敷かれており、廊下の長さは4600mあります。中央玄関に入った先に位置する中央広間は吹抜けで、窓と天井にはステンドグラスがはめられており、伊藤博文、大隈重信、板垣退助の銅像が立っています。

地方からの参加者のことを考えて、夏休みに入った日曜日の午後としたため、売店等が休業であったこと、他の見学者も多かったため少し速足での見学となりましたが、子供たちもおとなしく説明を聞いており、今回の見学会が少しでも記憶に残ってくればありがたいと思います。最後に集合写真を撮って、解散となりました。

